

本島通信

本島大教会 秋季大祭 神殿講話 (要旨)

【立教187年10月22日】

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
 電話 0877-27-3321 (代)
 本島通信編集室 R241025-1030-18
 奈良県天理市指柳町270-1
 本島詰所 〒632-0093
 電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>
 Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
 【11月1日～12月31日】
 朝づとめ 午前6時45分
 夕づとめ 午後6時00分

おやさま おしえ 教祖の教を伝える苦心が ひながたをたどる成人の道

大教会世話人

みやもりよいちろう
宮森与一郎先生

本日は本島大教会の立教187年秋季大祭に参拝させて頂きましたので、少し思うところを皆さんとご相談申し上げます。しばらくお

付き合ってくださいますようお願いいたします。



昨日午後、大教会へ来させて頂きました。大教会には女子青年さんが2人います。明るく、可愛い2人が勤めてくれていますが、「青年さんは？」と尋ねますと、「青年はいないという答えでした。もったいないですね。せっかくこんなに素晴らしいチャンスなのに、きつと今青年づとめをしたら楽しいだろうな」と思いながら、せっかくのチャンスなのはどうして大教会に青年が来ないのかなと思いますね。

今のはちょっとした話であります。私たちはチャンスを逃していかどうか。日々の中にきつと神様は何かのチャンスを与えてくださっている、それを見逃していかどうか、よく考えて頂きたいのであります。

我々のに、いがけ、おたすけも。ちよつとしたチャンスがいっぱいあるはずであります。それを私たちは見逃していかどうか、気をつけてみたいと思うのであります。

に、いが掛からない。人さん誘ってもついて来てくれない。よく言いますけど、本当はせっかく与えられたチャンスを見逃しているのかもしれない。

さて、月日が流れるのは早いものであります。だんだん歳を取ってきますと、一日の日というのはあつと。間に過ぎて行くような気がします。これをジャーネーの法則と言うのだそうです。

私たちは2年前の秋の大祭で真柱様から諭達第四号を發布して頂いて、教祖140年祭に向かう三年千日の活動を始めたのであります。早くも2年も過ぎてしまいました。私にとつてはあつという間でありました。

2年前に真柱様の諭達を頂いて、この教祖140年祭に向かつてそれぞれの教会が、自分達の心定めを自分達で決めよう、定めようと誓ったのであります。またそれぞれようばく、一人ひとりが、自分の心定めを自分でして、それを日々コツコツと実践していこうと誓ったのであります。ですから今度の年祭は、本部から「こんなことをしますよ」「これを全員でやりましょう」というのではありません。自分が自分の心定めをするのであります。そしてそれを自分で実践していく。これが教祖140年祭であります。

何故かと言いますと、明治22年1月24日のおさしづに次のお言葉があります。

いつもいつまでも親の厄介になる者はどんならん。子供の成人三才までは手離しは出けん。神一条の道も、いつくまでも尋ねてばかり居てはどんならん。辺所の所一人前の人間、三才までの理と同じ事。どんな者もたすけ一条、さづけ一条、だんく渡してある。

どういう意味か。いつもいつまでも親の厄介になっていたらあかん、ということでもあります。子供の成人、

小さい子供が成人していく過程で、3歳頃までは親はしっかりと面倒を見てやらないとどんなことが起こるか分からないから、親がそっち行ったらダメだよ」「こういうふうにしなさいね」と、ものすごく手を焼くのであります。

しかし、だんだん大きくなって、成人してきたのに、いつまでも「次はどうしたらいいの」「ああしたらいいの」「お母さんお父さん教えてよ」と訊いては親は心配であります。自分のことは自分です。このようになってこそ、親は安心するのであります。

私たちのこの信仰も同じことだと仰せられるのであります。年限を重ねて、もう教祖が現身を隠されて13年以上も経ちます。だんだんと年限を重ねて、代も重ねて、それでも「どうしたらいいの、教えて教えて」ではあかん。自分でしっかりやりなさい。辺所の所(寂しい所)、我々がにいがけ・おたすけに行っても、そう簡単には話は聞いてもらえませんが、それでも一人前のよう、よくやろう。3歳までと同じや。いつまでも聞いたらあかん。どんな者にもよう、よくはおさづけの理を渡してある。

しっかりこれで親の思うこと、望むことを考えてくれ、という意味だと思えます。

自分で決めて、自分でやれるようになってこそ、一人前のよう、よくです。この姿を成人と言うのであると思えます。言われてするのも良いことですが、言われなくてもできる、これを「成人したな」と言って頂けるのだと思えます。

諭達第四号を發布して頂いて、大教会に本部巡教が行われました。続いて大教会から各分教会へ一斉巡教が行われたと思えます。それは一名称、一よう、よくが諭達を読ませて頂いて、心定めて欲しいという巡教でした。おちばから言われたことではなく、自分で決めて、ということですから、どうしてかと言うと、それぞれ持ち場や立場、年齢も違えば環境も皆違うからです。皆が同じことのできるわけではありません。

年を取った者には若い人のような元気な動きはできません。でも若い人には経験が少なく、年寄りには経験があるかも知れません。それぞれの持ち場立場、男性と女性も違います。それぞれ、それぞれの徳分も違いますので、自分で決めて実行する。

これが大事なのであります。

2年が経って、教祖の年祭まであと1年と数ヶ月となりました。真柱様は、年祭の日が本番ではなく、三年千日を通ることが本番だと教えて下さっています。毎日毎日が大切であります。

今までの2年間をちよつと振り返ってみましょう。何を心定めたのか、思い出すのも難しいかもしれませんが、心定めたことをちよつとずつでも積み重ねて来たかどうか、ちよつと振り返ってみて下さい。

少しづつでも何かやっていれば、ちよつとした成人があるわけでありです。少しの成人でもいいと思えます。「ああ、私はこんなところが変わったな」と後で振り返ってみたら成人していたということもあります。おふでさきの中に、「日々」という言葉が62回出てきます。大変多いなと思えます。例えば、

にちく／＼にをやのしやんとゆうものわ たすけるもよぶばかりをもてる (第十四号35)

にちく／＼にすむしわかりしむねのうち せゑぢんしたいみへてくるぞや (第六号15)

にちく／＼にはやくつとめをせきこ

めよ いかなるなんもみなのがれるで (第十号19)

毎日、親神様のご守護はあるわけでありです。そして私たちも毎日それに応えようと、ちよつとしたことをさせて頂く。日々が大事であります。今の2つ目です。

最初に言ったのは「チャンス逃さない」。

2つ目は「毎日が大切」ということ。毎日の中にチャンスが見えてくるわけでありです。

この人(に)を、いを掛けんならんと思えば、道の辻で会うても掛けてくれ。これからこれが仕事や。

(おさしつ明治40年4月7日)

とも仰せられています。道を歩いていて、辻で誰かにばったり会った。「あつ、この人に声を掛けとこう」と思ったらすぐに声を掛ける。「明日にしよう」ではいかん。今やと、この句であります。これを逃さんといてよ、と仰っている訳であります。

道の辻で声かけるのですから、そんなに大したことでも大丈夫です。「今度大教会に行ってみないか?」とか「おちばがえりというのがあるんやけどどう?」とかそれぐらいの言葉であります。そんなくらい

でいいと仰っています。大層なことをせよとは仰っていない。道の辻でも声を掛けてくれ、これだけでいいのです。毎日が本番なのであります。教祖のひながたをたどる心定めをして、成人した姿を教祖に見て頂こう。これが成人であります。残り1年数ヶ月、お互いに通りたいものです。

さて、昨年の秋の大祭で真柱様はこんなお話をして下さっています。

「教祖は諦めることなく、根気よく、口で、あるいは筆に記して説き、さまざまな苦勞の中を親神様の思召のままに身をもって歩まれて、ひながたをお示しくだされ、私たちを陽氣ぐらしができるようにお導きくださったのであります。」

教祖のご苦心は、私たちには想像もできないほどのご苦心であったと思うのであります。親神様のお望みが分かっているのは、教祖お一人であります。それを何とか分かってもらいたい。私たち人間が陽氣ぐらしができるように、どうしたら分かってくれるのかなというのが、教祖のご苦心であります。陽氣ぐらしができるように導くために、教祖にとつ

て分かってもらいたいことが何点かあったはずです。

それは、親神様が居られるんだということ。だから一番最初、月日のやしろとなられるときに、

「我は元の神、実の神である」

と神様の存在をまずお示しになっているのだと思うのです。この元の神、実の神がおいでになることをまず第一に分かってほしい。

そしてその元の神、実の神が泥海の中から今日まで続く大いなるご守護を下さっているということを分かってほしい。これが2つ目であります。

そして3つ目は、親神様が陽氣ぐらしをさせたいという神様の望みを分かかってほしいということです。だから天保九年十月二十六日の最初のお言葉は

「我は元の神・実の神である。この屋敷にいんねんあり。このたび世界一れつをたすけるために天降つた。みきを神のやしろに貰い受けたい。」

これが最初のお言葉でありました。この意味を皆の者に分かってほしいというご苦勞、これがひながたの道であります。

どうすれば親神様の存在を分かってくれるのか、どうすれば親神様の望まれる生き方を人間がしてくれるのか、どうすれば親神様の望まれる世界に変わるために働いてくれるのか、そのために教祖は貧に落ち切るご苦勞も、親類縁者村方の猛反対も官憲の激しい取締りの中も伝えてやりたい、分からせてやりたいの思いでお通り下されたのだと思うのであります。

この親神様の存在とご守護と望みと、これを伝えたい、分かってもらいたい、そのためにはどんな苦勞も通って行く、これが教祖ひながたの道であると思うのであります。これを通ればいいわけであります。

明治30年12月23日のおさしづに、「教祖の理を思え。存命の間樂しみの理も無く、理を見ず暮れた教祖の理を見よ。働けば働くだけ、めんく心に誠さえあれば踏み損ないは無。これ論したら分かるやろう。働いたら働いたゞけ、これから見えるのや。」

とあります。教祖のことを思ってくれ。教祖50年のひながたの道中、樂しみの理もなく、世間で言う「ああ良かったな、

嬉しいな、楽しいな」という楽しみ一つもなく、理を見ず暮れた教祖の理を見よ。結構な姿を見ずに現身を隠された教祖の理を思ってくれと、今我々が働いたら働いただけ、教祖のひながたを通ろうとしたら通ろうとしただけ姿が見えてくる。ご守護の姿が見えてくるのや。と、こういうおさしづであります。

先日、私の教会で月次祭が終わり廊下を歩いていたら、女性の更衣室から賑やかな話し声が聞こえてきました。そして「これだけは会長さんに言わんといてな」という声が聞こえて来たのであります。

その後ふと思ったのです。もし私自身が日々どんな苦勞してでもおたすけさせて頂くという姿が信者さんたちに写っていたら「それは是非會長さんに相談し」という声がきくと聞こえてきたはずやのになと思うので「これだけは會長さんに言わんといてな」とは、おたすけしていない証拠やなとつくづく思いました。

教祖を思い、教祖だったらどうされるかを思い、教祖のひながたを心において日々を通っているなら、積極的な匂を逃さないおたすけが出来ていたら、きつと言葉は変わってい

たと思うのであります。

修養科は今年一〇〇〇期を迎えました。この10月に入った人がちょうど一〇〇〇期であります。昭和16年から今の修養科が始まり、ちょうど千回目です。たくさん修養科生が入って下さっていますが、修養科の一期講師、3ヶ月勤めて下さって終わるとき、その一期講師の先生方とお話しをする機会があります。そこで「3ヶ月ご苦労さまでしたね。ありがとうございます。そして「3ヶ月間どうでしたか」と尋ねると、ほとんどの先生は「勉強になりました」と言われます。

一期講師に来て下さる先生方は会長がほとんどであります。そして講師という立場であります。教える立場です。ところが3ヶ月終わって「どうでしたか」と聞くと「勉強になりました」と。自分が勉強した、自分が分かったということがあります。修養科生に分かってもらおうと努力したことで、自分が分かった、ということでもあります。

分かったということは、今までよりちょっと成人したということでもあります。すなわち伝えよう、分かっ

てもらうにはどうしたらいいのか、という努力をすることで自分が成人したということです。

教祖年祭に向かって私たちはひながたをたどって教祖に成人した姿を見てもらおうというのであります。成人するには伝えよう、分かっほしいと努力すれば成人できるのであります。ここが大事であります。

つたない言葉でも構わない。自分の言葉で自分の姿で、この人にかかってほしい、この人におちばへ帰ってほしい、この人に教祖のことを知ってほしい、と努めた姿こそ成人した姿であります。

どうか残りの1年数ヶ月、これを徹底して頂きたいのであります。

成人させて頂くというの、ただ単にひのきしんも大事であります。自分一人でおちばに帰ることも大事であります。しかし成人とは、伝えようと努力することです。分かってもらおうと努力することです。あります。おちばへ、おちばへとお連れしようというところが成人の歩みの一番大きな姿であります。

勇んで掛ければ神が勇む。神が勇めば何処までも世界勇まます。

(おさづ明治40年5月30日)

チャンスを逃さず 日々を大切に

10月大教会教会長会議

立教187年10月22日

大教会長 片山幹太



とあります。せっかくの年祭であります。残り1年数ヶ月、お互い元気に通らせて頂きましょう。ありがとうございます。

(文責・片山幹太)

本日、世話人宮森与一郎先生のお入り込みを賜り、先生より只今の時句にあつて大切なポイントをお教え下さいました。

- 一つ目は「チャンスを逃さないこと」
- 二つ目は「日々が大切であること」
- 三つ目は「一人ひとりが心を定めて実行できること」

四つ目は、「教祖の教えを伝えようと努力すること、おちばへ人をお連れしようと努力すること」

これらをしっかりと心に治めて、残り1年数ヶ月の年祭活動を務め、成人の歩みを進めてまいりましょう。ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

【お詫び】このたびの教会長会議は不手際により録音できませんでした。このお話しは後日ヒアリングしてまとめたものです。ご了承ください。

【教会の掲示板】

本島ドットコムよりダウンロードできます。

皆勇まらして心も真の陽光を

文責 片山幹太

本島ドットコムよりダウンロードできます。

秋季大祭 祭典役割

献饗長 平井真治郎
伝 供 岡崎八十則・永島宗行・大上道徳・原口実・後藤正治・奥村龍夫・高垣光治・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・横関茂治・窪田卓夫・白垣初生・岩橋秀一・鎌田典夫・滑川善久・宮路和徳・
 村田輝夫・古井信・川村吉夫・溝口晋太郎・江草克一・松下尚一・屋敷ゲリー・大矢万三・木村太喜
雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・伊東賢太郎・鎌田康典・白垣俊生(順不同)

祭主 指図方	大教会長		座りづとめ		てをどり前半		てをどり後半	
	大西	知	厩者	岩橋竜造	賛者	伊東康成	長尾海和	
大教会長	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	茶屋原良昭	長濱充憲	
大西 知	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	岩橋慶三	岩橋秀一	
厩者	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	高垣光治	高垣洋子	
岩橋竜造	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	岩橋元実	高垣洋子	
賛者	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	雲庵まち子	片山美穂	
伊東康成	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	伊東晴美	梅木澄代	
長尾海和	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	大上道徳	横山富明	
てをどり前半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	横関茂治	大矢万三	
てをどり後半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	篠原丕王	香川勝巳	
てをどり前半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	片山直明	滑川善久	
てをどり後半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	吉田晴雄	大西 剛	
てをどり前半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	雲庵春彦	宮路和徳	
てをどり後半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	ソージミー	横関明美	
てをどり前半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	向所暉美子	佐藤道子	
てをどり後半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	岡崎むつゑ	肥後良子	
てをどり前半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー	井上みつの		
てをどり後半	片山 勲	原口 実	高島 栄造	吉田 知彦	ソージミー			

ちんぼん 拍子木
 太鼓 太鼓
 すりがね 小鼓
 三味線 三味線
 胡弓 胡弓
 神話 世話人 宮森与一郎先生

秋季大祭祭文

立教百八十七年十月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には世界一れつの陽気ぐらしを樂しみに紋型ないところからこの世をお創め下され旬刻限の到来と共に教組をやしるにこの世の表にお現れ下さりよろづいさいの元の理をお聞かせ下され世界たすけの眞実の御教えをお啓下さいました

爾来常に温かい親心をもつてお連れ通り下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共はこの御高恩を忘れることなく常に世界たすけの御用に日々感謝の心で努めさせていただきますがその中にも今日の吉き日は当大教会にお許し戴いた秋の大祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて陽気に勇んで座りづとめてをどりを勤めさせて頂きます

御前には国の内外から教え子たちが帰り集い喜び心も一入におうたを唱和して日頃賜る御守護に御礼申し上げ尚も変らぬ親心にお縋りする眞実の状をも御覧下さいますして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

尚本日は大教会世話人本部員宮森与一郎先生のお入り込みを賜わり年祭活動三年千日の仕上げの一年に向けて歩む私共教会長よ

ふばく信者一人ひとりぐらばの理を頂戴し心定めの実行に懸命に努め励ませて頂きたいと存じます

またおぢばでは二十六日の秋季大祭に続いて二十七日には「第九十八回天理教青年会総会」が開催されますが一人でも多くの会員が声をかけ合い誘い合わせておぢばに参集し御存命の教祖にお喜び頂けるようあらきとურიよりの精神を磨き共々に万波を越えていく所存でございます

何卒年祭活動の上には一層のお導きを賜わり時旬の人だすけの輪が日々々に大きく広がり陽気ぐらしの世の状を一日も早くお見せ頂きますようお願い通りの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

入社祭

立教187年10月22日、入社祭はありませんでした。

10月22日(火)
 【香川県丸亀市】

天候 曇後時々雨
 最低気温 16.5℃
 最高気温 25.6℃
 平均気圧 1018.4 hPa
 平均湿度 79%
 平均風速 1.6 m/s
 日照時間 1.6 時間
 降水量 1.5 mm

※ 降水量は一日の総雨量

ようぼく研修会

大教会布教部(平井真治郎部長)では、「ようぼく研修会」を10月25日午後6時30分より詰所4階講堂にて開催。講師に茶木谷吉信先生(大江部属・正代分教会長)をお招きし、約75分間の講義が行われ、119名が受講しました。



茶木谷先生は過去の論達が「たすけ」を強調されていたことに対し、論達第四号では一歩深めて「教祖ひながた」に大きな比重があることを分析チャートを使って紹介。真柱様が引用されている三つの言葉「水を飲めば水の味がす

る」「ふしから芽が出る」「人たすけたら我が身救かる」について、おさしづや逸話篇から理解を深く掘り進め、3つの心「感謝の心」「よろこびの心」「たすけあいの心」と、7つの行動「教会に足を運ぶ」「ひのきしんをする」「にをいがけを心がける」「親身に寄り添う」「おつとめで治まりを願う」「おさづけを取り次ぐ」「真にたすかる道がある」ことを伝えることを日々振り返り実行する年祭活動についてお話しされました。

大裏地区 稲刈りひのきしん

教会本部の大裏地区(天理市豊田町)圃場において、10月24日午前9時より稲刈りひのきしんを実施。約40名が参加し、汗を流しました。

場所は今年の6月25日に田植えを行った同じ圃場で、鋸鎌をもって稲株を切り、藁で束ねて稲架に掛ける作業を約2時間かけて行いました。来年6月、再び田植えひのきしんをさせて頂きます。

秋季大祭おちびがえり団参

立教の元一日に由来する10月26日の秋季大祭、続く27日の天理教青年会総会は週末に重なり国の内外から大勢の参加者で賑わいました。

本九分教会(雲庵春彦会長)では、おちびがえり団参を実施。26名が帰参し、初席3名、中席2名が別席を運びました。25日夜は詰所にて親睦会を行い、教祖140年祭に向かって気持ちを確かめました。

このほか新信峰分教会(木村大喜会長)は25名、鶴峰分教会(加藤文男会長)は23名、



文峰分教会と肥後八峰分教会(肥後良子会長)は15名、榮森峰分教会(西森正昭会長)は13名など、本島詰所は大変賑わいました。

青年会・熊島被災地へ

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、能登半島地震被災地への支援活動として、10月13日に実施。6名が出動し、衣料品店の荷物の搬出と移送、床下浸水した家屋の泥除去等の作業を行いました。



能登半島では1月1日の大地震に加え、9月の奥能登豪雨による多重災害に遭い、厳しい状況にあります。青年会本島分会では今後も支援活動を継続していく予定です。

青年会マンスリー隊

青年会本島分会では、大教会祭典準備ひのきしんを行う



第1回目のマンスリー隊を10月19日と20日の2日間実施。青年

会員11名を含む20名が大教会に集い、名称旗台設置、提灯付け、境内地草集め、教幕張り、餅つき、調饌などを行いました。なお今後は、11月17日(日)、12月21日(土)に実施する予定です。

天理教青年会総会参加

今年の天理教青年会総会は10月27日午前10時より本部中庭で開催され、本島分会より38名が分会旗を掲げ、本島詰所を出発して総会に参加しました。また総会に先立ち26日はお話しフェス、夕づとめ後は前夜祭にも参加しました。



事情はいづ

(立教187年10月26日)
 本権分教会
 臨時祭典願
 教会長 大上道徳
 創立百周年記念祭
 立教188年5月11日
 以上

おどげの理拝戴

(立教187年9月分)
 本島 桐山真菜
 パシフィックコースト
 RACHEL KAORI
 MOCHIZUKI
 本中国 篠原慶士
 仙峰 會田梨乃
 【計4名】

教人講習会修了

(立教187年9月10日付)
 マウイ
 HISAO 重人 GRANT
 【計1名】

教人登録

(立教187年9月25日付)
 マウイ
 HISAO 重人 GRANT
 【計1名】

証拠守り下附

(立教187年9月分)
 パシフィックコースト2、
 シータック2
 【計4件】

をびや許し

(立教187年9月分)
 本柳 水口成美
 赤峰 向所未奈
 (計2名)

ろくぢ会

(立教187年10月分)
 ▼本島△片山幹太・かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼本権△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会△高垣ひかり ▼本高△菅岡新 ▼本新田△友松貴史 ▼ポーランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次 ▼カリフォルニア教会
 ご芳志に厚くお礼申し上げます

誕生おめでとう

白木サイラス胤仁さん
 (2024年)
 10月18日生まれ、マウイ教会



大教会長動向

▼11月(予定)▲

- 1日、本部神殿奉仕当番
- 2日、香川教区役職者会議
- 3日、ようほく一斉活動日
- 19日、同朋分教会巡教
- 22日、大教会月次祭執行
- 25日、かなめ会委員会
- 26日、本部月次祭参拝
- 27日、かなめ会
- 28日、新任教会長の集い
- 30日、本部神殿奉仕当番

婦人会本部新委員に任命

【片山かおり支部長】

婦人会本部では、任期満了に伴い、新委員27名が9月25日、中山はるるえ婦人会長様から任命され、片山かおり支部長が新委員に任命されました。

第10回「本京の集い」

本京分教会(牧野道昭会長、東京都練馬区)では10月13日、本京分教会秋季大祭後に第10回「本京の集い」を開催。59人が参加しました。



新田先生は教会長を勤めながら、NPO法人「スペース海」を運営され、学校でも家でもない、子ども達の居場所づくりに取り組まれています。

慶事

伊東賢太郎氏(本備前分教会後継者)と速水むつきさん(日光大教会)の結婚式が10月28日本部教祖殿で執り行われました。



統計 (9月1日~30日)

教会名	初席	中席	参り回数	修科	教人講習	検定講習
本島	1		1			
本千代		1				
パシフィックコースト	3		1			
本中国			1	1		
赤峰		1				
倉峰	1	2				
栄森	1					
仙峰			1			
マウイ					1	
サガパシフィック				1		
合計	6	4	4	2	1	0



教会長登殿参列

【登殿参列係】

- 12月26日月次祭登殿参列者(教会名)
本幸山、本萬代、本柳台、攝城、攝南、阿波本徳、本篠、南峰、雄山峰、吉松峰、本九台、本中國(順不同)
※ 車椅子が必要な教会や登殿月の変更希望等は早めにお知らせ下さい。
- 登殿参列集合について
詰所で教服を着用し、午前7時30分写真の間集合してください。諸説明後、バスにて出発します。
- 登殿参列係：平井真治郎役員

立教188年心定め提出

【総務部】

- 「立教188年心定め」は、11月26日までに、直轄教会ごと所定の用紙にて、大教会長へご提出ください。

立教188年大教会巡教

【総務部】

- 直轄教会は所定の用紙に記入の上、11月22日まで、総務部(牧野・井上・池田・原口)へご提出下さい。

能登半島地震救援支援有志隊

【有志隊】

- 第3回日程：11月23日～25日
11月23日夕刻詰所出発、24日活動、25日未明詰所着
- 担当役員：岡崎八十則
- 担当窓口：牧野善明
(080-5407-4004)

青年会マンスリー隊

【青年会本島分会】

- 内容：大教会にてひのきしん
- 期日：立教187年11月17日(日)
立教187年12月21日(土)

布教の家入寮者募集

【布教部】

- 期間：3月29日「入寮研修会」から、翌年3月27日「卒寮の集い」まで
- 資格：①所属教会長ならびに直属教会長から推薦された天理教教人。②年齢は問わない。ただし、毎日布教に歩くことができること。③既婚、未婚は問わないが、単身での入寮に限る。
- 願書受付：1月25日午前9時から2月25日午後4時まで、布教一課へ持参。※ 郵送での提出はできません。各寮(教務支庁)では受付できません。
- 詳細については、布教一課(電話0743-63-2243直通)へお問い合わせ下さい

11月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

- 〈本部食堂ひのきしん〉
 - 期間：11月16日～30日
 - 派遣教会：赤峰
- 〈大教会・炊事ひのきしん〉
 - 期間：11月21日～22日
 - 派遣教会：渋谷
- 〈詰所・食堂ひのきしん〉
 - 期間：11月25日～26日
 - 派遣教会：本浜、赤峰

<https://www.honjima.com/>

本島通信 WEB 版は本島ドットコムより申込み承ります。印刷物よりお手元に速く届き、写真がカラーで鮮明です。

布教部報告(10月分) 数字は本年の提出回数です

にをいがけ名簿提出教会 (10月)			おさづけ取次報告教会 (10月)		
本島 4	本千賀 5	赤峰 10	本島 10	本千治 7	赤峰 10
樺太 10	本千治 8	雅峰 10	樺太 10	本千恵 4	雅峰 10
本田中 5	本攝 10	吉峰 8	本田中 4	本平濱 7	神峰 3
本倉岡 9	攝津 7	神峰 5	本倉岡 9	本攝 10	豪峰 10
本樺 10	攝泉 8	豪峰 10	本樺 10	攝津 8	倉峰 10
本室 7	攝竜 1	倉峰 10	本室 7	本吹田 5	栄峰 7
渋谷 7	本太 3	栄峰 2	渋谷 6	攝泉 10	大雄峰 8
代々木 7	本萩 10	大雄峰 7	代々木 7	本太 10	雄福峰 10
本萬代 7	琴浦 6	雄福峰 10	本萬代 7	本萩 10	栄森峰 8
本都 9	本幹 1	栄森峰 8	本都 8	本岡 3	栄星峰 6
本京 10	本福 1	栄星峰 8	本京 10	琴浦 2	霊峰 9
本東 6	安藝本中 6	栄東峰 9	本東 6	本福 1	大隅聖峰 8
本草 10	本備前 10	霊峰 9	本道盛 9	安藝本中 9	大松峰 9
本護 7	本府中 10	實峰 9	本草 10	本備前 10	大駿峰 10
本三 8	沖浦 10	大隅聖峰 9	本三 8	本府中 9	別峰 8
本恵 10	崇徳 10	大松峰 7	本恵 10	沖浦 10	大英峰 9
本恵明 10	与島 9	大駿峰 9	本恵山 8	本亀 7	肥後八峰 10
本静濱 9	本勇 3	別峰 8	本恵明 10	与島 8	新信峰 9
本静森 8	本高 6	大英峰 10	本静濱 9	本廣 3	鶴峰 9
本日米 10	本宣道 9	文峰 9	本日米 10	本勇 7	都峰 9
本浜 8	本九 10	肥後八峰 4	本浜 9	本高 10	仙峰 10
本米 8	本小倉 2	新信峰 2	本米 10	本九 10	ラナイ 3
本米臺 2	本陽山 10	鶴峰 8	本米里 10	本小倉 5	ミッドウエスト 5
本米里 10	本新田 10	都峰 10	本米浜 10	本陽山 10	サガバフィック 6
本米浜 8	本九台 1	仙峰 10	本千代 10	本肥港 10	カリフォルニア 2
本千代 10		サガバフィック 2	本千賀 8	本新田 9	
計 77 教会 719 名			計 77 教会 3,390 回		